



工業会

The Japanese Association For Non-Destructive Testing Industry (JANDT)



©日本非破壊検査協会

発行元 一般社団法人日本非破壊検査工業会
 〒101-0047
 東京都千代田区内神田2丁目8番1号 富高ビル3F
 電話 03-5207-5960 FAX 03-5207-5961
 URL : <https://www.jandt.or.jp/>
 編集 : 広報部会

令和8年度 定時総会を開催

6月8日、東京都千代田区の如水会館において第28期第55回定時総会を、正会員127名(内委任状78名)が出席し開催された。

総会では、第1号議案として令和7年度の事業報告、第2号議案として令和7年度の財務諸表及び監査報告、第3号議案として第28期(令和8年・9年度)の理事及び監事選任についての各議案が審議され、すべての議案について満場一致で承認された。続いて令和8年度の事業計画書及び収支予算書が報告された。

その後開催された懇親会では、各界から120名を超えるご出席をいただいた。

主催者を代表して長岡康之理事長は、第55回定時総会が無事に終了した旨の報告をしたうえで、「非破壊検査業界が長年にわたり培った技術・技能は、汎用性の無いAIやロボット技術に勝っており、技術者がインフラの安全・安心を支えている一方で、課題は人手不足だ。配筋探査資格を民間から国家資格にすることで裾野を広げ課題を解消したい、そのためには会員各位の理解と支援が不可欠であり、倍旧のご理解とご支援を賜りたくお願いする」と挨拶された。

来賓挨拶は、国土交通省の廣瀬昌由技監より「経済成長や国土強靱化には、今あるものを賢く使ってトータ



定時総会のもよう

ルでマネジメントすることが重要であり、そのためには非破壊検査技術が必要だ」とご祝辞をいただいた。続いて、公明党非破壊検査技術振興議員懇話会会長の秋野公造参議院議員より「15年前の「予防保全」の頃から比べて非破壊検査技術は格段に進歩した、今後は更に質を担保する国家資格化に位置付けるための取り組みに協力していく」と、経済産業省製造産業局の須賀千鶴産業機械課長は「非破壊検査は、日本の産業やそれを支える社会インフラの目に見えない安心安全を牽引している」と、日本非破壊検査協会の落合誠会長からは「日本の非破壊検査技術及びそれを実務に生かす力は、世界的に高く評価されている。今後も連携を深めていただきたい」とご祝辞をいただいた。

乾杯のご発声は、日本溶接協会の青山和浩会長より「溶接と検査がタッグを組んで新技術を活用し、互いに品質向上を目指したい」とご挨拶をいただき、乾杯の掛け声と共に懇親会が盛大に行われた。



長岡康之
理事長



廣瀬昌由
国土交通省技監



秋野公造
参議院議員



須賀千鶴
経産省製造産業局
産業機械課長



落合誠
JSNDI会長



青山和浩
JWES会長

本年度総会での表彰

猿渡 保氏(ポニー工業株式会社)

(表彰理由) 第20期～第27期理事。機材支部支部長、安全部会部会長、その他部会の委員会委員長。機材支部においては、円滑な事業推進と組織の活性化を実現され、若手の育成に尽力されました。安全部会においては、組織の再編と現場実態に即した安全施策の立案・推進に尽力され、安全意識の向上に多大な貢献をされました。

富田 裕樹氏(総合検査株式会社)

(表彰理由) 第22期～第27期理事。関西支部長、広報部会長。標準積算資料の検討及び非破壊評価総合展開催を強力に推進し手腕を発揮されました。関西支部長として地域性を鑑みた関係団体との連携および各委員会活動の効率化に尽力するなど、当工業会の広報活動全般にわたり貢献されました。

工業会賞

第28期(令和8年・9年度)会務担当／顧問 任期2年(令和10年定時総会まで／敬称略)

役職名、担当部門	氏名 ※[]内備考(特記事項)
理事長	長岡 康之 [代表理事、全体統括]
副理事長	田中 崇 [理事長代行]
	日比 和彦 [理事長補佐]
専務理事	渡邊 正宏 [理事長補佐]
総務部会	部会長 長岡 康之
	副部会長 田中 崇、日比 和彦
広報部会	部会長 日比 和彦
	副部会長 木村 成晴、神林 吉治
技術部会	部会長 安田 裕之
	副部会長 中村 英之、本庄 兵輔
教育部会	部会長 坂本 敏弘
	副部会長 的場 正文、野口 博文、清 良平
認証部会	部会長 山中 伸晃
	副部会長 木村 成晴、清水 重之

役職名、担当部門	氏名 ※[]内備考(特記事項)
安全部会	部会長 大牟田 浩
	副部会長 本庄 兵輔
東日本支部	支部長 田中 崇
	副支部長 木村 成晴
関西支部	支部長 的場 正文
	副支部長 山中 伸晃
西日本支部	支部長 清水 重之
	副支部長 野口 博文
機材支部	支部長 清 良平
	副支部長 日比 和彦
監事	岡 賢治 小田原 勝彦
顧問	松村 康人 小倉 幸夫

第28期(令和8年・令和9年度)新任理事のご紹介 (敬称略)

副理事長 田中 崇(東京理学検査株式会社 代表取締役社長)

第28期の新役員として、東日本支部長ならびに副理事長を拝命いたしました田中崇です。諸先輩方が築かれた工業会の事業を大切に受け継ぎ、積極的に運営に関わってまいります。検査技術や機材の進歩を支援するとともに、技術伝承や若い技術者の育成にも力を注ぎ、会員皆さまのための工業会として、社会インフラの安心と安全を支える最後の砦となる非破壊検査業界の発展に微力ながら貢献したいと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



広報部会担当 神林 吉治(エース・エンジニアリング株式会社 代表取締役)

第28期の新任理事に就任いたしました神林吉治です。先輩理事・会員の皆様のご指導を仰ぎながら工業会の発展に尽力する所存です。現在、非破壊検査業界は深刻な人手不足に直面し、有資格者の維持・育成も厳しい状況にあります。この課題に対し検査技術の普及とその重要性を広く発言することで、業界全体の地位向上と信頼確保に努めてまいります。皆様のご支援ご協力宜しくお願い申し上げます。



教育部会担当 清 良平(株式会社計測技術サービス 代表取締役)

この度、新たに理事に選任されました、株式会社計測技術サービスの清でございます。身に余る大役であり、その責任の重さを深く受け止めております。機材支部長ならびに教育部会副部会長も仰せつかり、新任らしく、これまでにない、新しい取り組みを模索していきます。また配筋探査技術者認証の国家資格化をはじめ、装置メーカーの技術者としての知見を活かし、支部の発展、会員相互の連携強化、当工業会の教育・認証事業の、更なる発展に微力を尽くしてまいります。



安全部会担当 大牟田 浩(ポニー工業株式会社 執行取締役営業本部副本部長)

歴代の理事の皆さまをはじめ、工業会の発展に尽力されてこられた関係各位に深く敬意を表するとともに、身の引き締まる思いでございます。私が担当する安全部会においては、「安全は全てに優先する」という基本理念のもと、現場主義の徹底として実際の作業現場に即した課題抽出、会員企業との対話の重視を図りたいと考えます。微力ではございますが、当部会を通じ業界全体の安全水準の向上に尽力してまいります。今後とも皆様の指導、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくようお願い申し上げます。



技術・安全部会担当 本庄 兵輔(日本工業検査株式会社 取締役技術本部長)

このたび、一般社団法人非破壊検査工業会の理事に就任することとなり、大変光栄に存じますとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いです。私は約30年にわたり非破壊検査の現場に携わり、技術員として多くの設備や構造物の安全確保に取り組んでまいりました。非破壊検査は社会の安全と安心を支える重要な技術であり、その価値を次世代へ確実に継承していくことが私たちの使命であると考えております。理事として、会員各社の発展はもとより、人材育成や技術力向上、業界のさらなる認知向上に尽力してまいります。今後ともよろしくようお願い申し上げます。



退任役員からのごあいさつ (敬称略)

堀 充孝 前副理事長

このたび令和8年度定時総会をもちまして退任することとなりました。在任中は、皆様より多大なるご指導とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。工業会活動を通じて得た多くの出会いや貴重な経験は、私にとって大きな財産であり、大切な思い出となっております。安心・安全な社会の実現に向け、非破壊検査の役割は今後ますます重要になっていくことと思います。皆様のさらなるご活躍とご健勝、ならびに工業会の一層の発展を心より祈念申し上げます。

猿渡 保 前理事

30年前に大阪から東京へ転勤、以来工業会活動に参画させていただき多くの方々とお付き合いができ、思い出多き経験をさせていただきました。この30年、工業会は組織の再編、公益事業の拡大、収益の確保等、関係する方々は大変苦労されましたが、会員のみならず監督官庁や関連団体から信頼される業界団体になりました。私、6月で理事を退任いたしますが、これ迄のお礼と工業会の益々のご発展をお祈りし、最後の言葉とさせていただきます。

出牛 利重 前理事

このたび、4期8年にわたる工業会理事を退任することとなりました。技術担当理事として総務省消防庁等の委員会に参加させていただき、業界代表として、また非破壊検査技術者として意見を交わし、開発委員会等を通じて情報共有・意見交換でき、多くの学びと貴重なご縁をいただきましたことは、私にとりまして大きな財産となりました。工業会のさらなる発展を心よりお祈り申し上げ、皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念し、退任のご挨拶とさせていただきます。

小池 幸洋 前監事

理事・監事を通算12年、皆様から選出していただき、ありがとうございました。その間、いろいろなことを経験させていただきました。合同例会では、各支部の方々とは交流でき、楽しく勉強させていただきました。日韓交流においては、両国の相違を感じました。残念なことは、倫理違反が、数件発生したことです。非破壊検査業の地位向上が望まれます。私は離れますが、皆様によって、検査業界を発展させていただくよう願います。

本 部

会員動向 令和8年6月30日 現在 192社 (東日本支部 77社、関西支部 42社、西日本支部 40社、機材支部 33社)

入 会

■賛助会員 株式会社FUTURESHIP 代表取締役 小島幹雄

〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1531 エスポワールII102号

電話:044-922-2828 FAX:044-922-3009 E-mail:mejkh25@gmail.com (令和8年4月1日付)

関西支部 令和8年度 支部定期大会を開催

6月10日、令和8年度の関西支部定期大会が、滋賀県おごと温泉「琵琶湖グランドホテル」にて参加者25名のもと開催された。山中伸晃副支部長の開会宣言の後、的場正文支部長が支部活動に対する各社の協力で謝辞を述べ、「地政学的な緊張や自然災害は、我が国の経済及び産業活動に多大なる影響を与えている。当工業会は、これらの課題に直面する中、不確実な環境下においても社会の安全と信頼性を支える重要な役割を果たし続けている。また、建築、エネルギー、社会インフラ分野における非破壊検査の需要は堅調な一方で、技術者の高齢化や若手人材確保と言った課題が顕在化し、業界として持続的な成長のため、これまで以上に人材育成と技術継承の強化が求められている。関西支部は、若手技術者の育成支援やキャリア形成の支援に注力し、魅力ある業界づくりに取り組んでいく」と挨拶した。次に、定期大会報告書に基づき、令和7年度の事業報告・決算報告及び監査報告、令和8年度の会務担当及び運営体制・事業計画・収支予算が担当幹事及び監査から報告された。続いて、工業会安全衛生功労者表彰および各種表彰を行った。特別講演は、星野最宥・比叡山延暦寺副執行参拝部長が「比叡山延暦寺の歴史」を講演した。日比和彦氏(KS-NET)より、人手不足解消を後押しするための中小企業省力化投資補助金の製品カテゴリに【鉄筋溶接継手専用超音波探傷器】が登録されたとの報告があった。その後質問タイムにて意見交換を行った。

会場を移し、福瀧周三幹事の司会進行のもと、川崎博義幹事の開会挨拶、藤井富昭幹事の乾杯音頭で開宴し、各社出席者の和やかな歓談が行われ親睦を深め、藤井幹事の中締めにより閉会した。



的場正文関西支部長



関西支部 定期大会

近畿地整『鋼橋の点検並びに損傷の調査手法の高度化に関する研究』PJ報告

1. はじめに

関西支部技術委員会は、その活動の一環として、国土交通省近畿地方整備局が主催する「新都市社会技術融合創造研究会」に参加している。本研究会は発注者とインフラに関わる技術者の情報交換の場となっており、初参加から既に10数年間経過している非破壊検査工業会においては、この活動は、インフラ業界の技術者に非破壊技術について知っていただくための貴重な機会であり、新たな分野の開拓に繋がることを期待されている。

以下に「新都市社会技術融合創造研究会」下で、R4年7月～R7年3月に、関西大学の石川教授をプロジェクトリーダーとして活動した『鋼橋の点検並びに損傷の調査手法の高度化に関する研究』プロジェクト（以下、研究PJ）について報告する。本研究PJは、図-1の研究体制に示すとおり、産・官・学の共同研究PJである。関西支部技術委員会からは、川崎博義（テクニカルエンドインスペクションサービス株式会社）、原澤隆之（東洋検査工業株式会社）、一ノ瀬伯子ルイザ（株式会社日本工業試験所）の3名が研究PJに参加した。

2. 研究PJの目的

近年、橋梁点検の効率化を図るために、UAV等の点検支援技術が活用されているが、検出可能な損傷の限界や、非GNSS環境下の箱桁内部、狭小な空間での点検精度等がまだ課題である。また、鋼橋のき裂損傷の調査については、依然として点検員（検査員）の経験に頼っており、点検員間で一定の質が保たれていない場合があると指摘されている。

そこで、本研究では、疲労き裂を対象として、点検支援技術を含めた点検および調査技術の効率化と精度確保、ならびに点検および調査の適切な実施に資するための実際の構造ディテールと疲労き裂を忠実に再現した実物大試験体の作製と点検・調査の手引き等の作成を目的とした。

3. 研究PJの内容

本研究PJの内容を以下に示す。

- ① 鋼橋におけるUAV等の点検支援技術を活用した点検手法について、可能な技術レベルを明確にし、橋梁構造や点検箇所に対応しい点検手法の調査研究を行う。（図-2）
- ② 鋼橋の点検により判明した損傷の適切な調査手法や、その精度向上のための手法について調査研究を行う。（図-3、4）
- ③ 上記の研究を踏まえ、点検箇所や点検内容に応じた効率的な点検手法や、損傷状況に応じた調査手法の手引きの取りまとめる。

4. 研究PJの結果

研究結果は以下のとおりであった。

(1) 実物大疲労試験体を用いた疲労き裂の再現

実橋の構造を忠実に再現した斜角30°の桁端部の実物大試験体を用いて疲労試験を行い（図-3）、疲労き裂の再現に取り組んだ。載荷条件は、着目位置が厳しい応力条件となるように設定し、過積載を考慮した。

疲労試験により、「長いき裂」、「短いき裂」、それぞれを発生させた。端補剛材縁部の回し溶接部に止端き裂が生じ、進展するにつれ

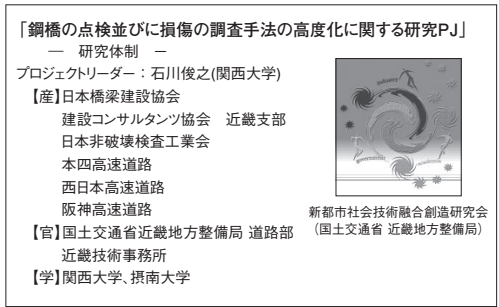


図-1 研究PJの体制

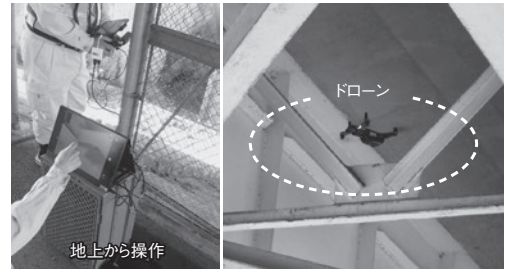


図-2 橋梁点検支援技術の一例(UAV)

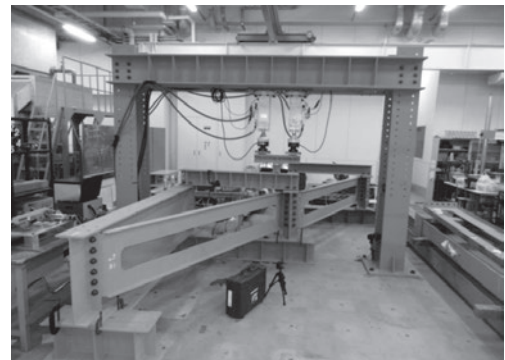


図-3 斜角30°を有する鋼橋桁端部の試験体

端補剛材上端部 長さ20mmのき裂
 ・荷重範囲：140kN
 ・繰返し数：1万回

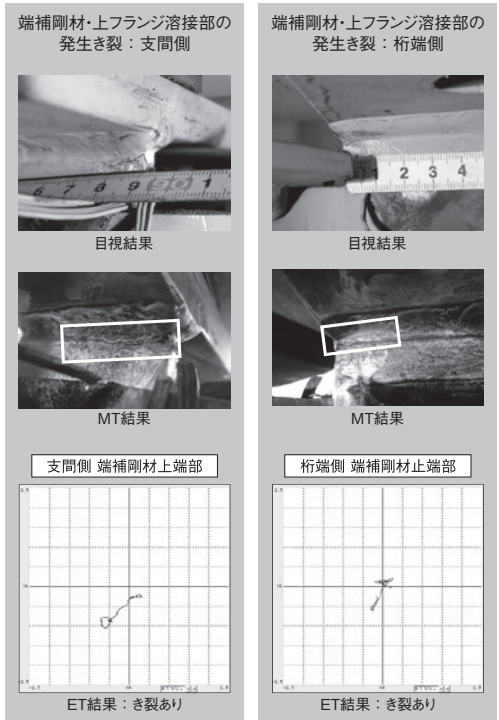


図-4 実物大疲労試験体によるき裂の再現および非破壊検査

て内部で生じたルートき裂と合体して最終的にはルートき裂が進展した。さらに、点検員育成の教育ビデオ作製のために、き裂の進展挙動を動画で記録した。

(2) 疲労試験中のき裂に対する非破壊検査技術の適用性検討

疲労試験で発生させた「長いき裂」と「短いき裂」に対してMTとETを実施し、それぞれの結果を比較した。その結果、長さ20mm以上のき裂についてはETでも検出できたが(図-4)、長さ6mm程度のき裂については、き裂の不連続性のため、ETでの検出は困難であった。

(3) 斜角が小さい橋梁の実態調査

斜角45°未満の近畿地整直轄の橋梁(132橋)について点検調書等で状況を確認し、その中から特徴的な疲労損傷が生じた4橋を選定して現地調査を行った。

また、斜橋桁端部の力学的挙動を調べるために、R4年度に30°の斜角有する鋼橋で、動的載荷試験と応力頻度測定を行った(図-5)。現地計測の結果を元にFEM解析を行い、桁端部の変形挙動を明らかにした。

(4) 鋼橋の疲労き裂調査に関する手引きの作成

研究成果の取りまとめの一つとして、「鋼橋(斜角)の疲労き裂調査に関する手引き(案)」を作成した。手引き(案)では、

- 疲労損傷が生じやすい斜角の小さい鋼道路橋を対象として、その構造特性や疲労き裂に関する調査方法を具体的に提示した。
- 適切な非破壊検査による疲労き裂の早期発見と、疲労損傷に対する事後保全対策や予防保全対策を提案した。

上記により、斜角の小さい鋼道路橋の疲労耐久性の向上が期待できることを示した。

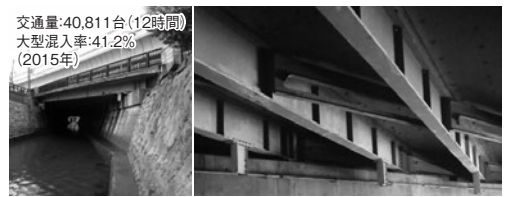
5. まとめ

研究成果は年度毎に報告書としてまとめ、近畿地方整備局へ提出した。研究PJの主な成果については、土木学会全国大会年次学術講演会、鋼構造シンポジウムへ産官学連名の投稿・発表をもって一般公開となった。加えて、ISSS-PSSC2025(韓国)、IABMAS2026(米国)などの国際会議へも投稿した。

研究PJ終了後に開催された「プロジェクト評価・選定委員会」では、本研究PJは判定「S」(プロジェクトの目的が計画以上に達成され、十分な研究成果があった)と評価され、研究目的の高い達成度と研究成果の活用・発展性、道路政策の質の向上への反映見込み等が認められた。

参考文献

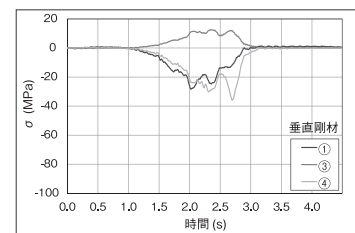
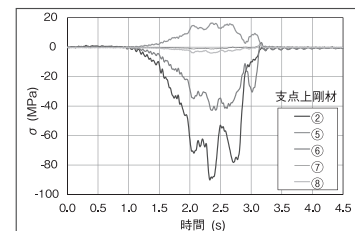
- 1) Ichinose Luiza H., 高橋秀爾, 石川敏之, 坂野昌弘: 斜角30°を有する鋼道路橋に生じた疲労損傷と変形挙動, 鋼構造年次論文報告集, 第31巻, pp. 154-159, 2023.11.
- 2) 坂野昌弘, 川上修, 廣瀬彰則, 折口清秀, 佐治嘉朗: 斜角の小さい道路橋の疲労損傷に関する実態調査, 鋼構造年次論文報告集, 第32巻, pp.141-147, 2024.11.
- 3) 坂野昌弘, 田井政行, 狩野哲也, 田中茂行: 実物大の斜橋試験体を用いた疲労き裂の再現, 土木学会第80回年次学術講演会, CS-3, 2025.9.
- 4) Luiza H. Ichinose, 田井政行, 田中茂行, 坂野昌弘: 斜橋の端横桁取付け部に生じる疲労き裂に対するETの適用, 土木学会第80回年次学術講演会, CS-3, 2025.9.
- 5) 小西日出幸, 川上修, 折口清秀, 廣瀬彰則, 藤井義之, 坂野昌弘: 斜橋における疲労損傷事例の調査, 土木学会第80回年次学術講演会, CS-3, 2025.9.
- 6) 「橋梁新聞」, 2026年2月1(2, 3面)。



(a) R4年度調査対象橋梁(斜角30°)



(b) 試験車走行による動的載荷試および応力頻度測定



(c) 試験車走行による動的載荷試験結果の一例

図-5 斜角が小さい橋梁の現地調査

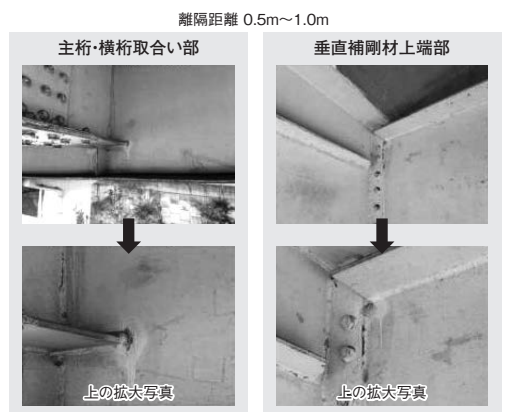


図-6 ドローンによる溶接部の塗膜割れ検出の例

問合せ先: 株式会社日本工業試験所 エンジニアリング事業本部 一ノ瀬伯子ルイザ

TEL: 06-6453-7221 FAX: 06-6453-7227 Email: l-ichinose@jit-osaka.co.jp URL: https://jit-osaka.co.jp/

第4回 インフラ点検技術講演会を開催

4月24日、東京都品川区のきゅりあん（品川区立総合区民会館）において「AIとともに歩むインフラ点検～三巡目点検の教訓と次の一手」をテーマにインフラ点検技術講演会を開催した。国土交通省並びに各界の第一人者による最新の点検技術に関する講演に、約150名が参加した。

主催者を代表して長岡康之理事長は、4月の三陸沖地震や世界で2番目に長い吊り橋である明石海峡大橋のケーブル防食システムなどに触れながら、老朽化するインフラの維持管理の重要性に言及したうえで、「本日の講演を有意義なものとしてほしい」と述べた。

最初の講演は、パシフィックコンサルタンツ交通基盤事業本部の安田亨技術顧問より「AI活用は加速フェーズへ！～「AI×人」が導く3巡目インフラ点検の変革戦略～」と題した講演を行った。

京都大学の西大和有三名誉教授より「様々なインフラ調査・点検技術の進展とAI技術の融合について」、国土交通省近畿地方整備局の中口和巳近畿道路メンテナンスセンター長より「近畿地方整備局におけるインフラ点検の取り組みについて」、IHI検査計測研究開発センターの宮下和大研究開発グループスタッフより「機械・構造物の疲労評価のための調査・計測技術」、ジャストイノベーション・マーケティング部の山根英人執行役員部長より「下水道点検はどう変わるか～スクリーニングという発想とスマカンの実装～」についての講演が行われた。

最後の講演は、国土交通省道路局国道・技術課の近藤弘嗣道路技術調整官より「道路インフラメンテナンスの高度化を目指して」と題し、橋梁やトンネル及び舗装における点検に関する新旧技術について、活用事例などが紹介された。

閉会に際し、当工業会の平手克治実行委員長より謝辞を述べ閉会となった。



長岡康之理事長



講演会のもよう

非破壊検査「標準積算資料」第14版を発刊

広報部会標準積算資料検討委員会（藤井富昭委員長）は「標準積算資料」第14版を令和8年6月発刊した。国土交通省が発表する設計業務委託等技術者単価に倣った直接人件費の見直し及び円安・原材料高等を単価に反映した。



IICは、正確な検査・計測サービスであらゆる分野に貢献します。

航空宇宙 環境 発電
自動車 食品 ヘルスマニタリング

IHI Realize your dreams

株式会社 IHI 検査計測 営業統括部
〒140-0013 東京都品川区南大井6-25-3
TEL.03-6404-6033 FAX.03-6404-6044
www.iic-hq.co.jp

豊かな経験・確かな技術

非破壊検査全般 ◆ 建築物設備配管劣化診断 ◆ コンクリート躯体調査・埋設物調査

JASCO 株式会社 **ジャスコ**
JAPAN SKIAGRAPH CO., LTD.

本社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜1-23-3
TEL 045(473)5140 FAX 045(473)5141
札幌営業所 〒003-0833 札幌市白石区北郷3条11-4-20
TEL 011-875-4166 FAX 011-875-0666
E-mail: eigyoku@kk-jasco.co.jp https://www.kk-jasco.co.jp/

工事の要・貫く力
最高峰のクオリティを追求します。

鉄筋探査 **レントゲン探査**

各種あと施工アンカー工事
アンカー引張確認試験
スクリーギア打設工事
スタッド工事 耐震補強工事
ダイヤモンドコア工事

ハツリ工事
ダイヤモンドコアビット販売
ハンドカッター販売
カップサンダー販売
道路用ブレード販売

社団法人 日本建設あと施工アンカー協会加盟
中央総業株式会社
神奈川県相模原市南区相模大野 3-20-1 中央総業ビル 4F
TEL 0120-07-1222 FAX 0120-07-5585

お客様と社員に信頼される
企業でありつづける

溶接検査株式会社

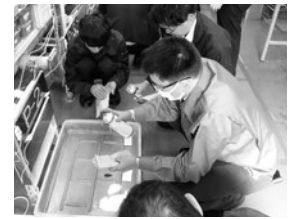
本社：〒985-0853
宮城県多賀城市高橋4丁目13-1
TEL：022-352-3459
FAX：022-352-3460
URL：http://yosetsukensa.com
出張所：山形・秋田

新入社員のための非破壊検査基礎講習会

機材支部計測分科会(石井康之委員長)は、4月17日～18日の両日に、川崎市川崎区の日本溶接技術センターにて「新入社員のための非破壊検査基礎講習会」を開催し24名が受講した。非破壊検査の基礎及び理解・普及を目的とした講義と実習で構成した講習会は、毎年定員を超える応募があり盛況である。講習会は、新入社員や検査機器に触れることが少ない事務系職員などを対象とした初心者向けの内容となっており、非破壊検査概論や溶接に関する講義、各種の検査手法に関する基礎講習や実機を使用した実技講習も行われた。



座学講習の模様



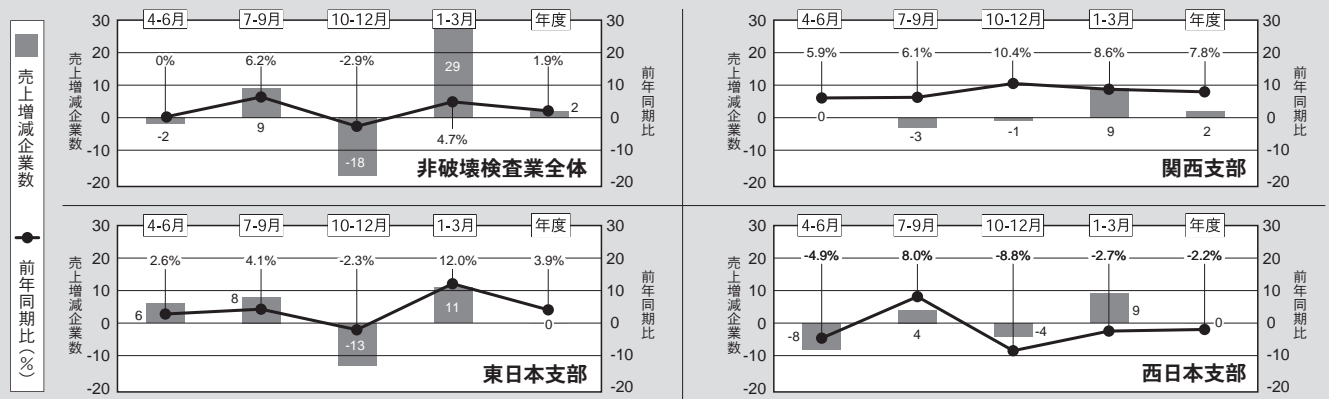
実習の模様

講習プログラム

1日目：講義・実習	2日目：講義・実習
<ul style="list-style-type: none"> 非破壊検査概論 溶接について 赤外線サーモグラフィ試験 磁粉探傷試験 浸透探傷試験 	<ul style="list-style-type: none"> 超音波探傷試験 放射線透過試験 電磁誘導試験 配筋探査 AE、ひずみ測定

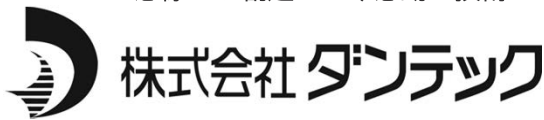
令和7年度各支部会員会社の景況感

定期月次売上調査の集計結果を前年同期比として纏め、下図に示す。売上増減企業数は、前年同期に対して売上の増加した企業数から、減少した企業数を減じた企業数を表す。また、前年同期比は、各支部の前年度売上高に対する増減の割合を表す。



CIW認定 A種
労働者派遣事業許可
ISO9001認証 JMAQA-1749

想像から創造へ 今感動の技術



株式会社ダンテック

- 非破壊試験検査全般
- 各種プラント保守点検
- 品質管理
- 建築・土木構造物調査診断
- 各種設備・配管劣化調査
- 破壊試験・化学分析等材料試験

本社 〒530-0043 大阪市北区天満4丁目14番13号
TEL 06-6354-3641 FAX 06-6354-2707
<https://www.dantec.co.jp/>



安全を見つめています

アトミック互業株式会社

営業種目：非破壊検査全般
インスペクター・品質管理
各種監督業務・調査業務等

本社 〒731-0103 広島県広島市安佐南区緑井1-28-45
TEL 082-870-3131 FAX 082-870-3210
URL <http://www.atm-kogyo.co.jp/>
E-mail honsya@atm-kogyo.co.jp
福山営業所 〒721-0963 広島県福山市南手城町3-17-17
TEL 084-928-4533 FAX 084-944-5005
E-mail fukuyama@atm-kogyo.co.jp



“診る”を究めて

人と技術を「安全」という強固な絆で結び、「安心」を提供します。

新日本非破壊検査株式会社

営業本部 〒803-8517 北九州市小倉北区井堀4丁目10番13号
TEL: 093-581-1234 FAX: 093-581-4567

東京営業部 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 16-9
aLATO日本橋小伝馬町 3階



TEL: 03-6661-1307 FAX: 03-6661-1308
<https://www.shk-k.co.jp>

非破壊検査機器のトータルソリューションカンパニー

KS-NET

KRAUTKRAMER
USM38 JE

JSNDI仕様デジタル超音波探傷器

「No1
売れ筋」



(一社)日本非破壊検査協会

「JSNDI仕様デジタル超音波探傷器」の基本操作仕様に対応！基本的なキー配置、メニュー構成・操作はUSM35X-JEと同様、さらに使いやすく、機能性を向上させています。スクリーンショットや探傷データは、SDカードに保存が可能となり、幅広い検査に対応するデジタル超音波探傷器です。

株式会社KS-NET

東京：TEL 03-3987-0351 大阪：TEL 072-960-6085
名古屋：TEL 052-324-9131 仙台：TEL 022-354-1243



KS-NET global website <https://www.ks-net.ne.jp>

2026年前期 インフラ調査士資格試験を実施

5月14日インフラ調査士資格学科試験（一次試験・再試験）が東京・大阪で同時に行われた。

【学科試験】新規受講・受験者数：43名、
再試験者数：22名

資格	橋梁（鋼橋）	橋梁（コンクリート）	トンネル	付帯施設
受験者数	48名	54名	50名	58名
合格者数	36名	44名	36名	37名

【二次試験】8月4日～5日

試験会場：川崎市産業振興会館
（川崎市幸区堀川町66-20）

講習会開催情報

インフラ調査士講習会	[教育部会]	4月17日	オンライン (Zoom) のリアルタイム講習会	受講者 48名
配筋探査講習	[教育部会]	土木：4月1日～21日	eラーニング講習	受講者 53名
		建築：5月8日～27日		受講者 41名
非破壊検査基礎講習会	[機材支部 計測分科会]	4月17日～18日	日本溶接技術センター（川崎市川崎区）	受講者 24名
エックス線安全取扱教育講習	[安全部会]	4月9日～5月31日	eラーニング講習	受講者352名

日本非破壊検査工業会 第22回技術討論会開催のご案内

【プラント保全 DXの実装と次世代エネルギーへの適応-非破壊検査の新たな役割-】をテーマに
下記の日時・場所で第22回技術討論会を開催致しますので、奮ってのご参加をお願い申し上げます。

開催日時：7月23日

開催場所：広島YMCA 国際文化ホール [本館/地下1階]（広島市中区八丁堀7-11）



詳細はこちら

サンコウの測定器・検査機器
新型鉄筋探知器 ReberEye

◆位置とかぶり厚を迅速探査！JASS5の検査に！

NEW

SANKO 株式会社 サンコウ電子研究所
東京：03-3254-5031 大阪：06-6881-1230 仙台：022-292-7030
名古屋：052-915-2650 福岡：092-282-6801
URL <https://www.sanko-denshi.co.jp>

Pony 可搬式エリアモニタ PEMG

特徴

- ・内蔵バッテリーで連続8時間稼働
- ・防滴仕様で屋内外問わず使用可能
- ・検出器ケーブルは最長30m
- ・視認性の高い大型表示ディスプレイ

主な仕様

- ・測定線種：X線、γ線
- ・エネルギー範囲：30keV～1.5MeV
- ・検出方式：GM管式
- ・測定範囲：0.1～999.9μSv

※オーバーフロー時、エラー時は「999.9」点滅表示

Pony ポニー工業株式会社 お問合せ先
www.ponyindustry.co.jp (大阪) 06-6262-6510
(東京) 03-5472-1091

支える、の一歩近くに。
RIKOH-S
非破壊検査機器の販売・修理・校正・レンタル

工業X線発生装置 超音波探傷器 USM38JE 超音波厚さ計 DM5E

カーリース（日本カーソリューションズ㈱代理店）
検査技術者の派遣（派34-300512）
お気軽にご相談ください。

理工サービス株式会社
〒733-0035 広島市西区南観音6丁目3番10号
TEL: (082)292-2552 (代) FAX: (082)295-0566
E-mail: rikoh@rikoh-s.com URL: <https://www.rikoh-s.com/>

EVIDENT
OmniScan X4、史上最高スペックへ
128:128 対応

- 64:128 モデルにオプション追加で128:128へアップグレード
- 本体上でマトリックスアレイプローブの設定が可能
- 応力腐食割れ（SCC）など複雑な検査で真価を発揮

omniscan X4

ワブテック・インスペクション・テクノロジーズ・ジャパン株式会社
0120-255-072 ims.evidentscientific.com